

会長就任挨拶

全日本中学校長会会長 宮澤 一 則



ただ今、全日本中学校長会第四代会長のご承認をいただきました、東京都板橋区立中台中学校長の宮澤一則

でございます。新役員を代表いたしまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日ここに、皆様のご承認をいただき大役を仰せつかりましたことは、身に余る光栄でございます。各都道府県中学校長会で構成される全日本中学校長会による連合体の目的を達成するため、全力で会長の責務を果たす所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

全日本中学校長会のため、ご尽力いただきました三田村裕会長をはじめ、副会長、理事、そして幹事の皆様、コロナ禍にあつて、対面の会議もできない一年間でしたが、会の運営にご尽力

いただきましたことに心より感謝申し上げます。お疲れ様でした。そして、本当にありがとうございました。

会則によりますと全日本中学校長会の目的は、「全国各都道府県中学校長会相互が緊密な協調を保ち、中学校教育の振興を図り、国家社会の発展に寄与すること」とあります。この目的を果たすため、全国の中学校長会との連携を一層強化し、迅速な対応を進めていくことを責務と捉えております。これらを確実に遂行していくため、副会長をはじめ各理事の皆様、さらには全ての会員の皆様による会の運営に関わるご理解とご協力が必要です。是非とも皆様のお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ここで、全日本中学校長会が今後取り組むべき三点について述べさせていただきます。

一点目は、コロナ禍においても「学びを止めない」ということです。一部の地域で発生した感染症が全世界へと広がり、新型コロナウイルスの対応が日本から始まってから一年余り経ちました。昨年は臨時休校や分散登校などの措置をとった学校も多数ありました。現在も新型コロナウイルス感染症の状況は、変異株の出現で悪化の一途をたどっています。このような中においても、感染症と共に生きていかなければならないという認識に立ち、生徒たちのたくましく生き抜く力を育んでいきたいと考えております。つまり「学びを止めない」ということであり、

そのためには私たち全日中の活動を継続・発展させていくことが大切です。生徒と教職員の健康と安全の確保を最優先にしながらも、全面实施となる学習指導要領を柱に教育活動を進めていくということは、校長として責任重大なことです。一方では、働き方改革の推進のため、学校行事や授業内容においても、様々な配慮すべき事項があり、工夫・改善が求められるところです。これらについても、全国の校長先生方と課題を共有し、対応策について情報交換を行い、共に乗り越えていきたいと考えております。

行事などの教育課程の変更、精神的な影響を受けている生徒や教職員への対応、部活動実施に向けた工夫など、多くの課題があると思いますが、生徒たちの明るい未来、さらには日本の将来のために、全国の校長先生方との連携を強化し、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

「学びを止めないこと」、これは全日本中学校長会における喫緊の最重要課題です。この認識のもと、行政とも緊密に連携していきながら、全国の校長先生方の知恵と情熱を結集し、この困難な状況を乗り越えていくことに全力で取り組んでまいります。

二点目は、「全日中新教育ビジョン」の更なる推進です。

「全日中新教育ビジョン」が昨年五月に策定され、その後、第四章を追加する形で完成いたしました。「全日中新教育ビジョ

ン」の改定については三年前から取り組み、情報技術の進歩や国際社会の急激な変化など、予測困難な社会において、たくましく生き抜き、明るい未来を創造する人間を育成するため、学校が取り組むべき具体的な目標と目標実現のための事項を10の提言に、まとめました。大きな特徴は、カテゴリーごとに系統的に位置付け、全体のつながりが分かるようにまとめたことです。これにより、それぞれの課題に個別対応するだけでなく、関係諸機関との連携を図りながら、総合的に対処することが可能になると考えております。

この「全日中新教育ビジョン」はそれぞれの校長が、自らの言葉で自身のビジョンを学校内外に伝える際に一つの指針となるように示したものであり、学校経営の根幹として常に意識していただければと存じます。全国の校長先生方が、この「全日中新教育ビジョン」に基づいた学校経営を進め、教育課題に取り組むことが、生徒たちの健全な成長につながり、日本の発展に寄与すると考えています。そして、学校からの教育改革を推進し、より良い学校教育がより良い社会を創るという教育の目標を地域社会と共有できる体制を築きたいと考えています。「全日中新教育ビジョン」を全国の校長先生方と共に、さらに推進していくことに積極的に取り組んでまいります。

三点目は、中学校における教育改革の円滑な推進です。

今年の一月に文部科学省より「令和の日本型学校教育」が示

されました。この中で新学習指導要領の着実な実施、学校における働き方改革の推進、GIGAスクール構想の実現などが課題としてあげられています。このように中学校教育にとって、今年度は大きな変革の年となります。具体的には全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現、さらには「主体的・対話的で深い学び」などの教育内容の進展や「一人一台タブレット」や「デジタル教科書」の有効活用など、指導方法の改善があります。一方、部活動の在り方や新規採用教員及び管理職の人材確保など、多くの課題も待ち受けています。

これらの教育改革を円滑に進めていく必要があります、会員の皆様の協力体制が不可欠です。そのためには、全国の校長先生方の協力、また中学校長会と全日中の緊密な協調が重要となります。この「つながり」から、全国の中学校教育の実態や課題をまとめ、全日中の方向性を見いだしていきたいと考えております。

様々な課題について行政機関等から全日中に意見を求められることがあると思います。このようなときに全国の中学校長の総意として意見を述べ、全日中の取組を全国に発信してまいります。また、全国の校長先生方と課題を共有し、知恵を出し合いながら、円滑に教育改革を進めていくことに全力で取り組んでまいります。

以上三点について述べさせていただきましたが、これらを進めるにあたっては、市区町村校長会と都道府県校長会、そして、都道府県校長会と全日本中学校長会との強力なつながりがなくてはなりません。さらに、各地区との連携が必要であり、今年度新に副会長会を組織できるよう、本総会で提案いたします。

これらの双方向の協調こそが、「全国九、〇〇〇人以上の校長の叡智を結集すること、そして難局を乗り越えるために行政とも緊密に連携していくこと」に結び付くと捉えております。九、〇〇〇人以上の校長先生方の周りには、約二〇万人の教員、約二九〇万人の生徒、さらにはその保護者がいることを常に意識し、精一杯取り組んでまいります。

結びになりますが、本会の充実に向け、これまでの歴代会長はじめ諸先輩方が築かれ継承されてこられましたことを受け継ぎ「実践もあり理論もある有言実行の教育の専門家集団」としての役割を果たすため、皆様と共に歩んでいくことをお誓い申し上げます、新役員代表としての会長の挨拶といたします。